

DV無くし隊 ✨ ✨ ✨

山形西高等学校 1年3組8番 大桑もも加
2番 阿部洸子

※DV：domestic violence
(家庭内暴力)の略

<日本のDV問題を教えてしんぜよう！！>

- ・DV被害は17年連続で増加している。(出典:警察庁2021年3月)
- ・DVされた際の相談先は身近な人へ相談する割合が最も高いが、一方で誰にも相談しなかったと答えた割合も高くなっている。(出典:県民意識調査2020年3月)
- ・男性被害者が2011年1,146人、2021年20,895人、この10年で約18倍(18.4)になっている。

<身体的な暴力の例>

加害者が被害者の髪の毛を引っ張って引きずり回し、蹴飛ばした。

資料出所:内閣府「配偶者等からの暴力に関する事例調査」(平成 13年)

<精神的な暴力の例>

加害者が被害者の欠点について長々と説教したり、大声をあげた。

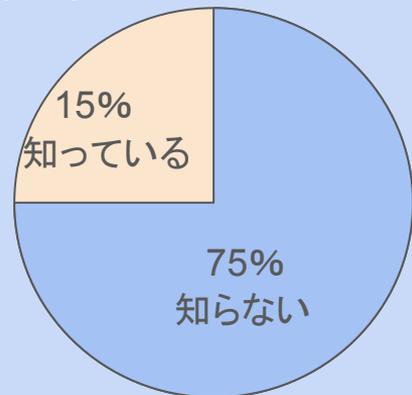
資料出所:内閣府「配偶者等からの暴力に関する事例調査」(平成 13年)

<性的な暴力>

加害者が被害者に性行為を強要した。被害者が妊娠すると加害者は被害者のお腹を叩きながら「墮ろせ」と大声を上げ、被害者が子供を墮ろすと再び性行為を強要した。

某元男性アイドルグループの元社長が自身の男性タレントに性的な行為をした。

(朝日新聞デジタル2023年10月)



↑山形西高等学校の職員を
対象とした県のDVの
具体的対策の認知度

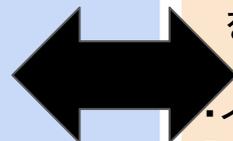
<DV対策の現状を知るべし！！>

<日本>

- ・DVは増加傾向にあるにも関わらず、対策は改善されていない。
(ポスターやパンフレットの呼びかけのみ)
- ・実際に男女共同参画センターの方にお話を伺ったところ、日本は新しい政策は考えていないらしい。
- ・日本では、被害者が自発的に専門家に相談しないと処置してもらえないため多くの被害者がなかなかその一歩を踏み出せずにいる。
- ・女性に向けての情報は多いが、男性 DV被害者への特化した対策は無い。
- ・男性と女性では対策の差がある。

<外国>

- ・ポーランドではコスメショップを装った相談窓口を設けている。
- ・イギリスでは薬局で「アニーさんはいますか？」という間接的な表現でSOSが伝わるようにしている。
- ・男性と女性が同じ対処を受けている。



日本は他国と比べて「DVは女性がうけるもの」という概念が強い！



※ 被...DV被害者
加...DV加害者

<偽装の美容室・理容室を開設だと！？>

私たちは、外国の政策を参考に、DV被害者を救うために男女ともに利用しやすい美容室・理容室を偽って以下の2つの方法でDV相談窓口を開設しようと思う。

- 1,電話してSOS発信
- 2,サイトにアクセスしてSOS発信

<1.電話してSOS発信>

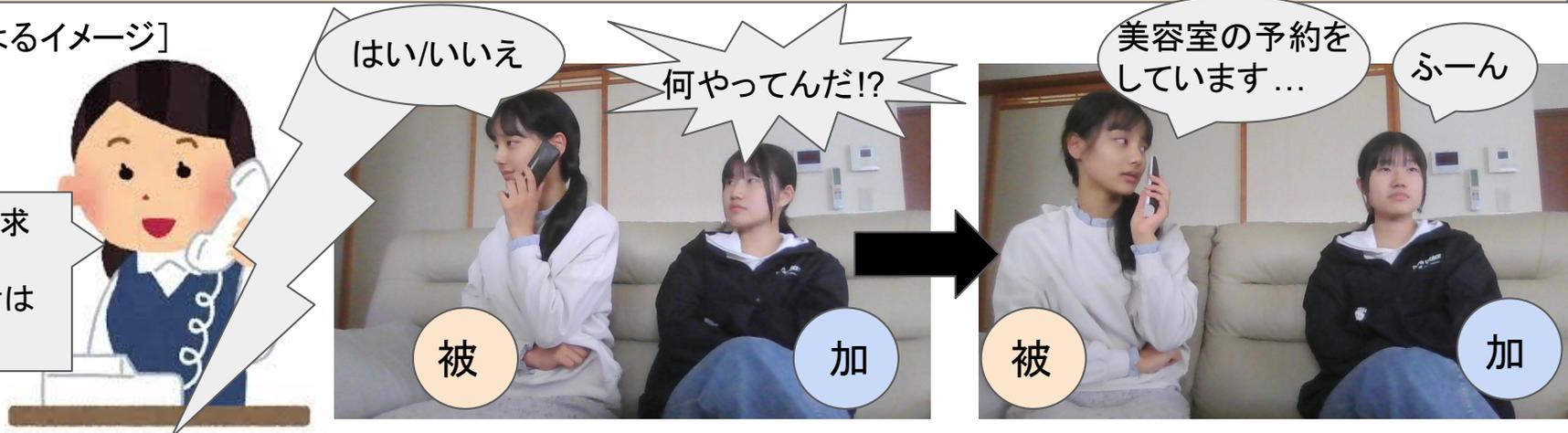
美容室・理容室を予約する口ぶりで相談窓口にDVに遭っていることを伝える仕組みである。

相談者は美容室・理容室の予約と加害者に思われてもおかしくない質問を被害者に問いかける。

- ①まず、加害者である配偶者が近くにいるかを聞き、そこから住所や性別、何人暮らしかなど「はい・いいえ」で答えられる質問をする。
- ②すぐに助けが向かえられる状況をつくる。

[本人達によるイメージ]

DVの援助要求ですね。近くに加害者はいますか？

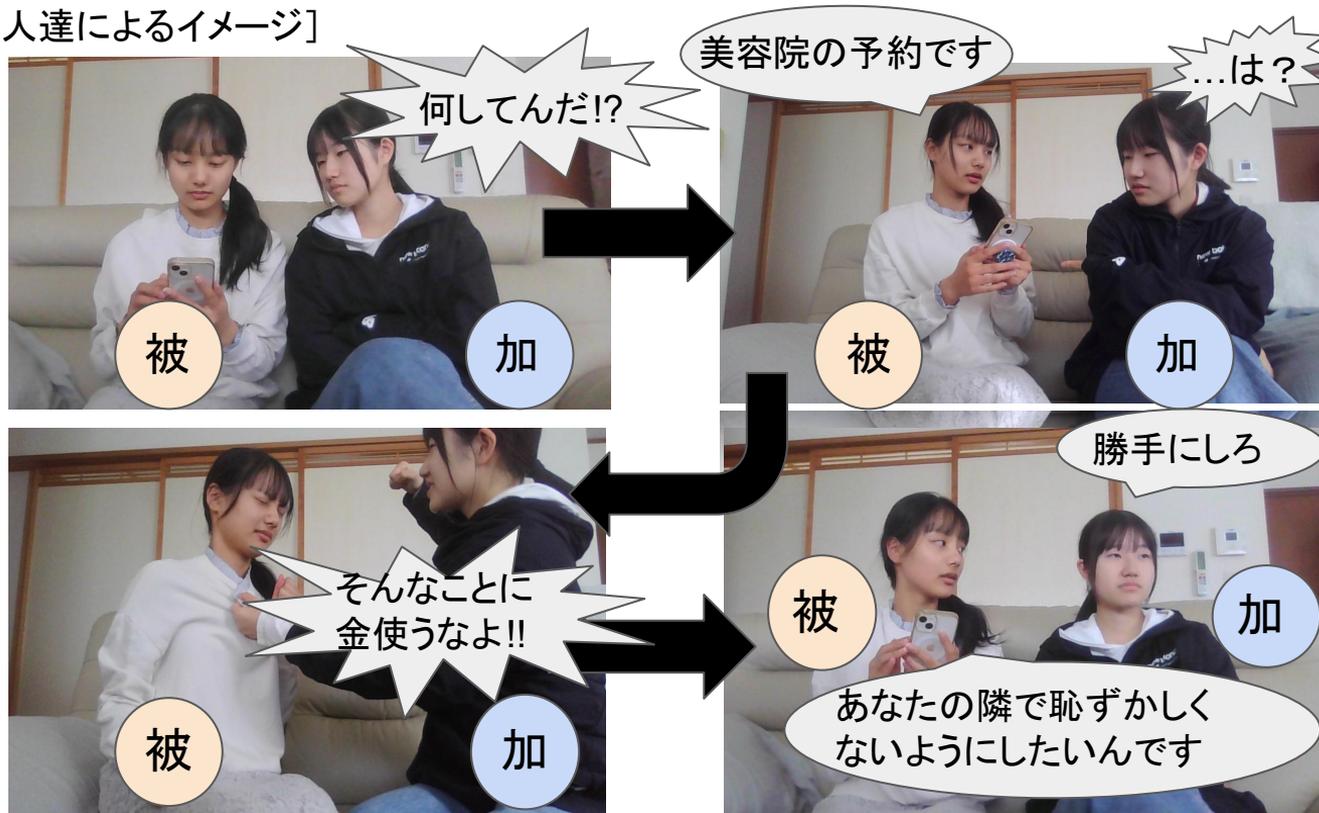


<2. サイトにアクセスをしてSOS発信>

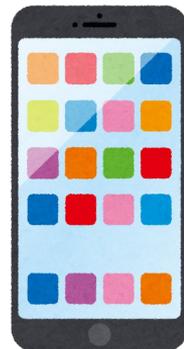
加害者にサイトを見られても気づかれないようなデザインにする。

- ① 子供も被害者にあっているかはキッズカットメニューを選択することで伝えられるようにする。
- ② 性別は美容師の指名で男性か女性かで伝えられるようにする。
- ③ 宅配してほしい場所として住所を入力してもらおう。→すぐさま助けに向かえられるようにする。

[本人達によるイメージ]



《POINT》
飲食系のサイトだと被害者が加害者に「自分で作れ」と言われ助けを求められない可能性がある→散髪は言われにくい!



<今の政策、Let's change！！>



【パープルリボン運動とは】

パープルリボン運動とは、紫のリボンを身につけることで女性に対するあらゆる暴力をなくそうとするメッセージを示す国際的な運動である。現在、40カ国以上の国に広がりを見せている。

しかし、暴力を受けているDV被害者は男性もいるためジェンダー平等に即していない。

➡ パープルリボン運動の対象に男性も含めて

性別に関係なく暴力をなくす国際的な運動にするべき！！

<クイズでDV知識身につけよう！！>

私達はWebサイトにDVに関するクイズを作ることによって小さい子から年配の方まで誰でも簡単にDVやその具体的対策について知る機会をつくる。右の図のように、2択のクイズを作成し誰でも楽しみながらDVの知識を身につけられる。

Q.このマークは何を表しているでしょう？



1.健康維持 2.暴力撲滅

クイズの具体例

※正解は【2】。女性に対する暴力をなくす、パープルリボン運動のマーク。

<まとめ>

日本のDV報告件数は年々増加しているが、日本の政策はそれに伴った変化をみせていない。私達は少しでもDVに苦しめられている人たちの力になりたいと思い、性別にも年齢にもとられない誰もが利用しやすい政策を考えた。今後、私達がこれらの政策を進める時は、ぜひ協力していただきたい。